

宇都宮大学

【N018 宇都宮大学】

	宇都宮大学 農学分野
学部等の教育研究 組織の名称	農学部（第1年次:215 第3年次:20） 大学院農学研究科（M:71）
沿革	大正11（1922）年 宇都宮高等農林学校創立 昭和19（1944）年 宇都宮農林専門学校と改称 昭和24（1949）年 新制宇都宮大学農学部設置 昭和41（1966）年 大学院農学研究科修士課程設置
設置目的等	<p>宇都宮大学農学部の母体である宇都宮高等農林学校は、我が国の農学の発展を図り農産業の振興に貢献することを目的に、大正11年に創立された。</p> <p>昭和24年、新制国立大学の発足時に、宇都宮農林専門学校は宇都宮大学農学部として承継された。</p> <p>昭和41年、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、文化の進展に寄与することを目的に、大学院農学研究科修士課程が設置された。</p> <p>昭和60年、バイオサイエンス、特に生物利用科学に関する高い専門的能力と豊かな学識を身につけた研究者を養成し、バイオサイエンスの進歩と生物関連産業分野の発展に寄与することを目的に、東京農工大学を基幹大学、茨城大学及び宇都宮大学を参加大学とする連合農学研究科が設置された。</p> <p>平成3年、時代の要請に基づき、先端技術や情報科学及び学際領域・複合領域等の新分野を付加し、農学の総合教育を目標として、4学科10大講座2附属施設の新たな教育研究体制に再編整備した。</p> <p>平成25年、生物生産科学科を生物資源の保全・持続的生産等を教育する生物資源科学科と、生命の営みを支える物質の化学特性とその応用開発などを教育する応用生命化学科に改組し、5学科体制とした。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p>宇都宮大学は、首都圏の食を支える北関東にあって全国有数の歴史をもち、自然・環境と調和した豊かな人間生活の実現を目指す農学の教育研究機関として、実践的な教育と研究及び社会貢献に取り組んでおり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <p>○ 広い教養と倫理観を養い、持続的生物生産、生物資源の応用、食</p>

の安心・安全、環境の保全等に関する専門知識を教授し、附属施設やフィールドで実践力を培う。これらを基盤として、高度な専門性と複眼的視野をもって農林業及び関連産業の課題を解決できる人材育成の役割を果たす。

- 全国に先駆けて国際的に通用する教育認証を受けた教育プログラムや海外の大学との交流、更にフィールドを重視した実践的教育、農林業・関連産業界や地方自治体との連携などの実績を生かして、グローバルな視野に立って社会のニーズに対応できる人材を育成するため、不断の改善を図る。
- 全国の附属農場に先駆けて認定された教育関係共同利用拠点として、大学間の連携により他分野と融合した教育プログラムを構築・推進してきた実績を生かし、他学部・他大学と協力して首都圏におけるフィールド型食農教育の拠点としての機能を強化する。
- 難防除雑草の制御に関する世界的研究、植物病虫害、野生動物や里山に関する先駆的研究などのフィールドに根ざした高い研究実績を生かすとともに、農工連携など異分野融合型の研究を進め、我が国及び世界の持続的社會を創り支える農学を推進する。
- 地域の諸課題を解決するための組織的な支援、地方自治体の地域計画・産業振興に関わる審議会等への参画、産学官連携プロジェクトによる実用技術の開発等の実績を生かし、農林業及び関連産業の振興や豊かな社会づくりに寄与する。
- 社会人を対象とした里山野生鳥獣管理技術者養成プログラムや農業経営者育成セミナー、大学院における社会人枠などの実績を生かし、地域の活性化を支える人材育成を推進する。
- 農業関係高校（栃木・群馬・埼玉）との連携協定に基づいた先端的教育プログラムの提供など全国に先駆けた取組、スーパーサイエンスハイスクール等の実績を生かし、高大連携教育を強化する。また、附属施設で実施してきたフィールド体験型理科・環境教育を更に展開し、地域の次世代に向けた科学教育に貢献する。